



私の文化 / 10歳 / ナイジェリア連邦共和国



明るい港 / 10歳 / 秦野市 (神奈川県)



向こう側にはより良き世界がある / 11歳 / スロベニア共和国



家族で鍋料理 / 10歳 / 中華人民共和国



私の一番好きな海の中のヒョウアザラシ / 9歳 / オーストラリア連邦



マチュ・ピチュ / 14歳 / ペルー共和国



私たちの伝統的なもの / 10歳 / メキシコ合衆国

「こどもの絵」から多文化共生社会を

2020年
3月20日 (金・祝)
14:00~16:00 (開場13:30)
あーすぶらざ 2階プラザホール
定員:200名 (要申込)
参加無料

2019年に開催20回目を迎えた「カナガワビエンナーレ国際児童画展」を事例として、これまで果たしてきた実績に触れつつ、多文化共生社会のなかで「こどもの絵」がもたらす可能性について、登壇者それぞれの立場から参加者とともに考えます。

【カナガワビエンナーレ国際児童画展とは】

国際交流および国際理解の推進・啓発を目的として、海外および神奈川県の児童・生徒から絵画作品を募集して作品選考を行い、入選作品を展示(本展・巡回展)する展覧会事業。1981年に第1回展を開催、2019年で第20回を迎えるとともに、開催20回記念特別展「プレイバック ザ・カナガワビエンナーレ」を同時開催しました。

プログラム

第1部 (14:00~15:15)

プログラム紹介 (15分)
パネルトーク (60分)

- ・「こどもの絵」がもたらす社会への影響力は?
- ・「こどもの絵」と多文化共生とのつながりって?
- ・「こどもの絵」が多文化共生社会を推進する可能性はある?

休憩 (10分)

第2部 (15:25~16:00)

質疑応答・まとめ (30分)

パネリスト

水沢 勉 みずさわ つとむ

神奈川県立近代美術館館長
カナガワビエンナーレ国際児童画展審査員

王 節子 おう せつこ

横浜山中華学校美術科教師
カナガワビエンナーレ国際児童画展審査員

鈴石 弘之 すずいし ひろゆき

NPO法人市民の芸術活動推進委員会理事長
世界児童画展審査員

ファシリテーター

杉浦 幸子 すぎうら さちこ

武蔵野美術大学芸術文化学科学科教授

申込み

- ① イベント名: 3/20シンポジウム
 - ② 参加者全員のお名前・ふりがな
 - ③ 電話番号
- 電話、メール、来館にて①~③を下記までお知らせください。

主催

神奈川県立地球市民かながわプラザ (あーすぶらざ)
指定管理者: 公益社団法人青年海外協力協会

〒247-0007
神奈川県横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1
E-mail sympo@earthplaza.jp
045-896-2121

あーすぶらざ

「こどもの絵」から多文化共生を考える

「こどもの絵」を取り巻く状況

2019年で20回目を迎えた「カナガワビエンナーレ国際児童画展」は、国際交流および国際理解の推進・啓発を目的として、海外と神奈川県の子童・生徒から絵画作品を募集して作品選考を行い、入選作品を展示する展覧会事業です。「日本」と「海外」という国境を越えた者同士がそれぞれの国の文化の違いを理解するという目的を達成するため、2年ごとの開催を続けてきました。

この40年で時代は大きく変化し、国内の在留外国人は2018年6月時点で約264万人と過去最高になり、「国際交流」とともに「多文化共生」への取り組みが進んでいます。神奈川県では、2019年1月時点で、174の国と地域出身の約21万人の外国人が暮らし、そのうち8,000人近くが公立学校に通い、その数は年々増えています。

「こどもの絵」から考えたいこと

「日本」と「海外」に分けられないアイデンティティを持つ「ミックスルーツ」のこどもも増え多文化共生社会が進んでいくなか、アートはどのような役割を果たすべきなのでしょう。カナガワビエンナーレ国際児童画展がこれまで果たしてきた実績に触れつつ、「こどもの絵」が多文化共生社会を推進していく可能性について、参加者の経験や悩みを共有しながらともに考えます。

パネリスト



美術展キュレーターの立場からこどもの絵の魅力を話します

水沢 勉
みずさわ つとむ



外国人学校で美術を教える立場からお話します

王 節子
おう せつこ



アジアと日本のこどもの絵の国際交流をしている立場からお話します

鈴木 弘之
すずいし ひろゆき



アートと社会の関係をデザインする立場でつなぎます

杉浦 幸子
すぎうら さちこ

ファシリテーター

神奈川県立近代美術館館長。1952年横浜市生まれ。1978年慶應義塾大学大学院修士課程修了後、神奈川県立近代美術館に学芸員として勤務。2008年横浜トリエンナーレ2008「タイムクレヴァス」のアーティストック・ディレクター。2011年より神奈川県立近代美術館館長。現在にいたる。著作に『この終わりのときにも 世紀末美術と現代』(思潮社、1989年)など。

華僑2世として福岡県に生まれる。大分大学教育学部美術科卒業後、横浜山手中華学校美術科教諭。YOKOHAMA国際美術教育会会長。横浜中華街九龍委員会委員(1996~2002年)、横浜トリエンナーレ教育プログラム「キッズガイド」発案・企画・推進(2005~2011年)、カナガワビエンナーレ国際児童画展審査員(2011~2019年)、第19回カナガワビエンナーレ国際児童画展において海外と日本の受賞者による壁画共同制作プロジェクト「スウィーツ・スマイル・ドラゴン」の指導と制作に当たる。近年、学校と地域社会との美術連携のあり方について教育実践の観点から研究している。

NPO法人市民の芸術活動推進委員会理事長。1945年生まれ、福島県出身。多摩美術大学インテリアデザイン専攻。東京の小学校図画工作科専科教諭を退職後、2018年にNPO法人市民の芸術活動推進委員会を設立。「四谷ひろば」(元四谷第四小学校)を活動拠点にして、造形美術活動の支援やランプ坂ギャラリーを運営。元東京都図画工作研究会会長、元全国造形教育連盟委員長、文部省小学校指導要領解説(図画工作)作成協働者などを歴任。美育文化協会理事。近年はアジアの子どもたちと日本の子どもたちの絵の国際交流を展開している。

武蔵野美術大学芸術文化学教授・社会設計家(芸術文化領域)。1966年東京都生まれ。1990年お茶の水女子大学文教育学部哲学科美術史専攻卒業。1995年ウェールズ大学大学院カーディフ校教育学部美術館教育専攻修了。2001年「横浜トリエンナーレ2001」教育プログラム担当。森美術館パブリックプログラムキュレーター(2002-2004年)。京都造形芸術大学プログラムコーディネーター(2005-2011年)。年齢や国籍、障がいなどの差異を超え、多様な人々が、豊かに学び、生きるために、「芸術・文化」に関わる「モノ、人、場」を活用し「こと(プログラム、プロジェクト、組織等)」を設計(デザイン)している。

神奈川県立地球市民かながわプラザ
あーすぷらざ
私たちが地球に暮らす一員として、日々の生活の中で考え、自分にできる身近なことから行動していくための総合的な施設です。

神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぷらざ)
指定管理者:公益社団法人青年海外協力協会
〒247-0007 神奈川県横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1
Tel : 045-896-2121
E-mail : sympo@earthplaza.jp

- 5F こどもの国際理解展示室、国際平和展示室、こどもファンタジー展示室、映像ホール
- 3F 企画展示室
- 2F (正面入口) 映像ライブラリー、情報フォーラム、外国籍県民一般・法律、教育相談
- 1F 事務室、貸出施設、ラウンジなど

